

友好都市・連携都市からの メッセージ

友好都市

岡山県高梁市

たかはし

いしだ よしお
石田 芳生 市長

総人口：26,027 人
世帯数：13,144 世帯
(令和6年12月末現在)

連携都市

東京都台東区

たいとう

はっとり ゆくお
服部 征夫 区長

総人口：216,084 人
世帯数：137,054 世帯
(令和6年12月末現在)

筑西市誕生20周年、誠におめでとうございます。下館城主として御地を治めておられました水谷勝隆公が、寛永16年に私どもの備中国に国替えとなり、本市の城下町の礎が築られました。城主を同じくして、それぞれのまちの今日の繁栄につながっています。このご縁をもとに、昭和54年、旧下館市と旧高梁市が友好都市縁組を締結、そして平成の大合併を経て改めて締結させていただき、青年団、消防団、子ども親善大使、職員派遣交流など、官民を問わず多岐にわたる交流を46年間続けさせていただいています。

高梁市のわがまち自慢



ベンガラ色の町並みが印象的な成羽町吹屋地区。「ジャパンレッド発祥の地」として日本遺産に認定されています。

まが給水活動にいち早く駆けつけてくださり、市民に献身的に接してくださる姿に多くの市民が救われました。改めて感謝申し上げます。これからもさまざまな分野での交流を通じて絆をより深め、両市が益々発展することをご期待いたします。

このたび、筑西市誕生20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。筑西市と台東区の交流は、蔵前小地区コミュニティ委員会の交流から始まり、平成29年には「連携協定」、令和3年には「災害時相互応援協定」を締結いたしました。浅草のアンテナショップである「ふるさと交流ショップ台東」や地域のイベントなどにおいて、筑西市のPRをしていただいているほか、小学生には毎年秋に旬の梨をご提供いただいています。新鮮で美味しい農産物を中心とした産業交流は、区民が筑西市を身近に感じる良い機会となっています。

台東区のわがまち自慢



毎年約100万人の観客を楽しませる隅田川花火大会や、国内外問わず人気スポットである浅草寺。

たいと存じます。結びに、20周年を迎えられた筑西市の益々のご発展と市民のみなさまのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます、お祝いの言葉いたします。

住んで最高、筑西。

筑西市長

須藤 茂



誇れる歴史と文化を未来へつなぐ

平成17年に下館市、関城町、明野町、協和町の1市3町が合併し、筑西市が誕生しました。この間、さまざまな取り組みのなかで一体感も深まり、このたび20周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。

本市は、平坦で住みやすい環境のなかで、先人の弛まぬ郷土愛あふれる努力により、農・商・工のバランスの取れた発展を遂げ、医療体制を整備し、子育てから高齢者まで切れ目のない支援の充実を図ってまいりました。また、下館駅は、JR水戸線、関東鉄道常総線、真岡鉄道真岡線のターミナル駅としての要衝となり、これに大動脈である国道などの道路網が加わることで、市民の生活や経済活動など豊かな暮らしをもたらしてきています。今後も、この流れを止めず持続的に発展可能な基盤づくりを進めることが重要であります。加えて、この地域には、それぞれに特有の歴史、文化、慣習などがあります。これまで先人たちが残してくれた財産がどのように引きつがれてきたのかを知ること、改めて自信と誇りを持つだけでなく、郷土への愛着につながることでしよう。

この度、誕生20周年に合わせ、本市を広くアピールするため、ブランドメッセージとロゴマークを作成いたしました。ブランドメッセージ「しあわせをおすわけするまち 筑西市」は、本市に昔からあった、おすわけ文化、思いやりの心、支え合う気持ちをこのまちの未来につなげていきたいという思いを表現したものです。これまでの本市の歩みを振り返るとともに、市民と行政が一体となって「しあわせをおすわけするまち」を創り上げていく新たなスタートの年として、そして、これからも「住んで最高、筑西。」を推進するため、未来に向けて、ともに歩みを進められるよう願っています。

筑西市ブランドメッセージ



ここに住むと、あたたかくなれる。
ここに暮らすと、優しくなれる。
ここに生きると、笑顔になれる。

自然と文化と歴史の恵みにあふれるこのまちで、
うれしいことはみんなで分け合って、
困難なことはみんなで力を合わせて乗り越えていく。
その先には、きっとしあわせな未来が待っている。